

憲兵隊による医療群アクティブシューター対応訓練 *SFS trains MDG in active shooter scenario*

April 19, 2019

By Machiko Arita
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真1) 4月18日、横田基地で行われたアクティブシューター対応演習で、部屋に人がいるかどうかを確認する第374医療支援中隊病院運用課長ニック・ヤンコスキー技能軍曹。

同演習では、アクティブシューターがいる状況下における第374医療群のユニットマーシャル(アクティブシューターなどの脅威に対応する訓練を受けた要員)の対応力が試された。第374憲兵中隊のトレーナーが評価し、テストの後にフィードバックを行った。



(写真2) 模擬負傷者をシェルターに避難させる第374歯科中隊歯科衛生士ティモシー・ライト技能軍曹。

第374憲兵中隊は、第374医療群のユニットマーシャルのパフォーマンスを2つのシナリオに基づいて評価した。1つ目のシナリオはロックダウン。2つ目のシナリオはロックダウンを行いながら武装した標的(アクティブシューター)に対処するものだった。



(写真3) 第374憲兵中隊のトレーナー達は、テストの後、第374医療群のユニットマーシャルたちのパフォーマンスについて質問をした。

この演習は、ユニットマーシャルプログラムの一環で、アクティブシューターなどの脅威にさらされた状況下で、憲兵隊から正式なトレーニングを受けた部隊の要員が、憲兵隊が到着するまでの間、自分達や職場、その場にいる人々の命を守る目的で行われている。太平洋空軍でこのプログラムを実施するのは、横田基地が初めてである。

